家計診断

円高は外貨建て投資の好機？
為替変動リスクにどう対処

相談

59歳の会社員。子どもが大学を卒業、仕送りの負担がなくなり、毎月10万円ほど余裕資金が生まれました。貯蓄は約600万円です。数年後には退職金が入るので、資産運用を真剣に考える時が来たと思っています。特にこのところ円高が話題なので、外貨建て投資に関心があります。これまで金融資産はすべて円建てで、外貨投資の経験はありません。投資後の円高リスクが心配ですが、証券会社の担当者は「すでに歴史的な円高水準なので、さらに大幅な円高が進む可能性は小さい」と言います。為替リスクについてどう考えて、どんな外貨建て商品を買えばいいでしょうか。

長期保有を視野に ■ 将来の円安に備え

相談者のように、「円高の今は外貨投資の絶好の機会」と考えている人は少なくないでしょう。

例えば、日本円と米ドルの為替相場が1ドル＝80円の時にドルを買い、1ドル＝100円まで円安が進んだところで売れば、1ドル当たり20円の為替差益が得られます。元手の80円に対する利益は25%。ただし、これは為替相場が思惑通り円安に進んだ場合です。

確かに最近の円相場は、1ドル＝79円75銭の史上最高値に一時迫るなど、まれに見る円高水準にあります。「今後、円高局面が終わり、円安が進むのではないか」と期待する人もいるでしょう。しかし、為替レートは「長期的には各国通貨の購買力が等しくなるように変化する」と考えられていますので、デフレが進む日本の円は、さらに強くなってもおかしくないという意見もあります。

外貨投資で肝に銘じるべきなのは、為替相場がどう動くかは、だれにもわからないということです。だから短期的な動きやタイミングをとらえて行動すると、当てが外れることがあります。重要なのは長期で考えることです。

日本は食糧やエネルギーを輸入に頼っています。円の価値が恒常的に高まっていた高度成長期と違って、今後、円安に振れた時に、輸入物価の高騰をどう乗り切るかが大事な問題になってきます。

資産の一定割合を外貨建てで常に保有していれば、円安で物価が上がっても、外貨資産の価値は増すので、資産全体の購買力の減少を緩和してくれます。

外貨資産を保有すると為替レートが気になりますが、次のような考え方もできます。

例えば、1豪ドル＝90円の時に、オーストラリア国債（年利5%、5年満期）を1万豪ドル分、90万円で買ったとします。満期の5年後には、利息が付いて1万2千豪ドル余りになっています。こうなると仮に1豪ドル＝74円程度まで円高が進んでも、当初の元本である90万円は確保できているのです。

なかなか円安にならない場合、満期の時に外貨のまま投資を続ければいいと考えれば、為替を過度に気にすることもなくなります。

具体的な投資先を考えてみましょう。為替が変動しても資産全体で購買力を維持できるように、世界の主要通貨である米ドル、ユーロに加えて、資源国オーストラリアの豪ドルを4対4対2の比率で持つことに、一定の合理性があると考えます。成長著しい中国、インド、ブラジル、南アフリカなどの通貨も注目されていますが、為替市場が小さく変動幅が大きい。暴落の可能性もあり、保有するにしても、割合はかなり低めに抑えたほうがよいでしょう。

初心者にお勧めするのは、リスクが為替変動だけという「わかりやすさ」から、外貨建てMMFと各国の国債です。為替手数料が比較的安い外貨建てMMFを毎月、定額の積み立てで買い、金額がまとまってきたら各国（ユーロは仏または独）の国債を購入します。

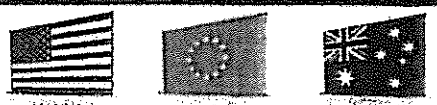
将来は外貨資産も債券と株式をバランス良く持つのが理想です。

数年後、当初の比率が崩れてきたら、高くなった通貨を一部売り、安くなった通貨を買ってバランスを戻します。円と外貨全体の比率についても同様の作業をします。こうして為替変動リスクを上手にコントロールするのです。

FPアソシエイツ&コンサルティング
ファイナンシャルプランナー　福田　啓太

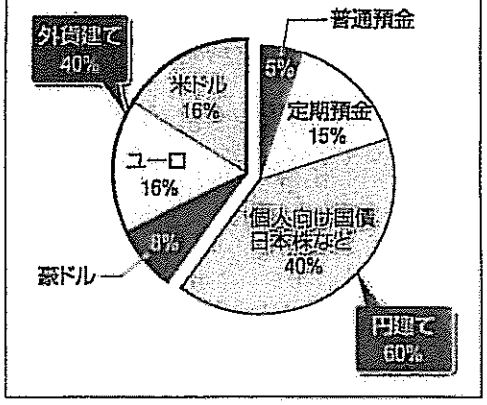
これから始める外貨建て投資の一例

1 まず外貨建てMMFを毎月10万円購入（債券を中心に投資する投資信託）



2 まとまってきたら各国の国債に買い換える（当初の比率を維持するよう調整）

3 リタイア後の資産内容の一例



（出所）朝日新聞 be Saturday　H22年12月18日
（無断転載を禁止します）